

武田由平 (たけだよしひ)

1892(明治25)年～1989(平成元)年

武田由平は岐阜県高山市生まれの木版画家です。1929年（昭和4年）に大分県立中津中学校（現中津南高校）の美術教師として中津市に赴任しました。教師として美術教育に情熱を注ぐ傍ら、版画の創作活動に励み、作品を「文展」「日展」に出品するなど日本版画協会、新版画集団の一員として活躍しました。

また、中津市美術協会の立ち上げに尽力したり、教え子から、多くの画家を輩出するなど、彼の活動は、中津を中心に大分の美術界発展に大きな功績を残しています。

彼の教え子たちが中心になって組織した美術団体櫻映舎などの活動も、活発に行われ、中津の美術をけん引していく存在ともなりました。今現在も、教え子たちが、中津の地で芸術文化活動を支えています。

2005年春、武田由平の版木や下絵などの百点を超える遺品が中津市に寄贈されました。今後、旧中津中学校の教え子の方々の手で整理・調査が行われました。その成果は、岐阜県大分県が共同で行った企画展「武田由平展」にて、発表されています。中津市でも展覧会を行いました。

現在も季節ごとの常設展では、数点ずつ作品を展示・紹介しています。

